

応援します!! 東北! 陸前高田市!

～行政丸ごと支援～ ～市民交流～



1: 陸前高田市を行政支援することとなった経緯

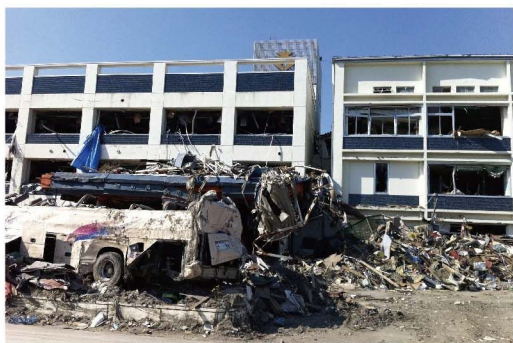
- 平成23年
3月11日 ● 東日本大震災発生
(震源地:三陸沖/規模:マグニチュード 9.0)
- 3月16日 ● 「名古屋市被災地域支援本部」の設置
- 3月19日
～31日 ● 先遣隊を岩手県沿岸部に
3回にわたり派遣
- 4月1日 ● 副市長をトップとする調査チームを
陸前高田市に派遣

1. 市街地は壊滅的な状況
2. 100名を超える市職員が死亡、行方不明
3. 市役所の行政機能がマヒ状態
4. 岩手県及び陸前高田市から強く支援を要請

4月7日
陸前高田市を全面支援
することを決定



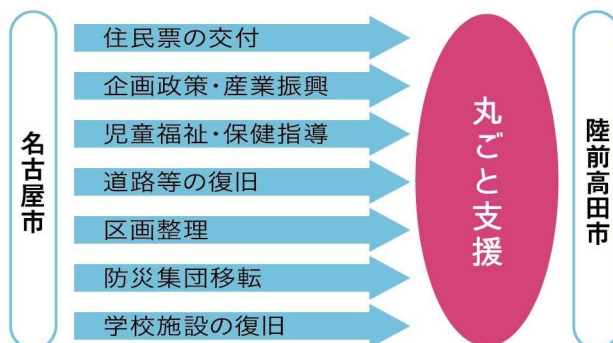
陸前高田市戸羽前市長と名古屋市河村市長



被災直後の旧陸前高田市役所庁舎

2: 名古屋市の支援の特徴

- 甚大な被害を受けた陸前高田市の行政全般を、名古屋市の持つ総合力によって“丸ごと支援”する「全国初の取り組み」です。
- 被災地の復旧・復興の状況に併せて刻々と変化する被災地からのニーズに対応して、業務に精通した職員を派遣しています。



平成23年度

住民票の交付、保健指導、り災家屋の調査、
ごみの収集、災害対策本部の運営、震災
復興計画の策定など行政分野全般

平成24年度
～
令和5年度

区画整理、道路等の復旧、学校施設の
復旧、水道整備など、新たなまちづくりに
向けた行政分野



土地区画整理事業による高台の宅地整備

3: 職員派遣

※派遣職員数については、短期派遣も含みます。

※岩手県、岩手県宮古市、宮城県仙台市、気仙沼市にも職員を派遣し、復興支援を行いました。

平成23年度から 令和5年度までに、陸前高田市へ延べ260名の職員を派遣

《陸前高田市への年度別派遣実績》

平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
33ポスト 延べ 144名	16名	13名	11名	8名	11名	13名	12名	12名	12名	6名	1名	1名



被災直後の陸前高田市役所仮庁舎
(コンテナハウスを利用)



被災した旧市役所で書類を探す職員



被災した書類の再生を行う職員



血圧測定と健康相談を行う職員



仮設店舗にて打ち合わせをする職員



水道整備関係業務に従事する職員



林道整備の現場に立合う職員



土地区画整理業務に従事する職員



司書業務に従事する職員



産業労働事務に従事する職員



防災関係業務に従事する職員



観光交流・振興事務に従事する職員

《これまで陸前高田市に派遣した職員が貢献した主な事業》

財務システム及びデータの復旧／庁内LANの構築、情報ネットワークの復旧／被災家屋の調査、土地関係のデータ復旧
戸籍・住民票、国民健康保険、生活保護、介護保険、家庭ごみ収集等の行政サービスの回復／震災復興計画の策定
農業・林道関係のデータ復元／防災行政無線の復旧、地域防災計画の改訂／バス路線や鉄道等の交通政策の調整
被災した保育所、子育て支援センター等の再開／災害保健支援チームの総括、被災者に対する保健指導等の実施
被災した小中学校の施設の応急復旧、建設／水道事業の運営事務及び被災した水道施設の復旧／被災中小企業の再開支援
区画整理事業に係る調整・工事／橋梁復旧・復興道路の整備／高台への防災集団移転に係る調整・工事
火災予防に関する技術指導等の実施／新築家屋等に係る固定資産税の評価／市民税等に係る申告相談受付、課税資料の処理
埋蔵文化財の発掘調査／新図書館の開設準備、運営面に係る指導／観光交流・振興施策の推進

《被災前から現在の陸前高田市街地》

●被災前

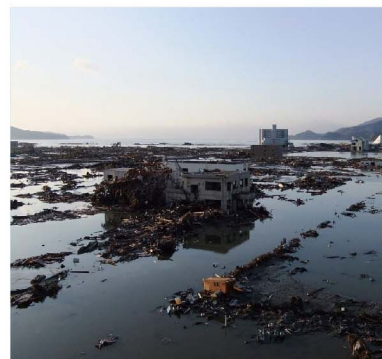


被災前の市街地

●被災直後(平成23年)



被災直後の市街地



●平成26~27年



かさ上げ工事を加速させた土砂運搬用の巨大ベルトコンベアー
「希望のかけ橋」

●現在



かさ上げし、復興が進む市街地

《陸前高田市における主な復興・復旧施設》



市街地に開業した商業施設



市役所新庁舎



図書館



総合交流センター「夢アリーナたかた」



高田小学校



高田松原運動公園



東日本大震災津波伝承館



高田松原津波復興祈念公園

《生活再建の状況》



応急仮設住宅



災害公営住宅



住宅の高台移転

- 陸前高田市における被災した市街地の復興土地区画整理事業では宅地の全ての引き渡しが完了しています。
- 陸前高田市では2,168戸の応急仮設住宅が建設され、最大で2,139世帯(平成24年1月)、5,635人(平成23年9月)の方々が仮設住宅での生活を余儀なくされましたが、住宅の高台移転や災害公営住宅への入居などにより、令和3年3月をもってすべての被災者が新たな住まいに移り、仮設住宅が撤去されました。

4: 子ども達の交流

「陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクト」

- 陸前高田市への行政丸ごと支援がきっかけで、子ども達が不自由な環境で学校生活を送っており、更に修学旅行にも行けない事が判明。「陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクト」を実施しました。
- 陸前高田市の中学生を名古屋市に2泊3日で招待しました。この事業は、全て名古屋市民や企業、陸前高田市を応援する方々からの寄附金やご協力により実現することができました。(本事業は、平成24年度で終了)

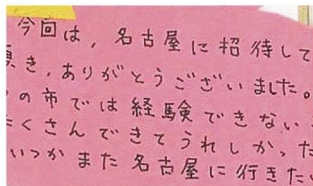
《陸前高田市中生による名古屋学習旅行》



就労体験



名古屋めし初体験



中学生からのメッセージ



被災した旧小友中学校

「陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクト」記念銘板を設置

ご協力いただいた市民や企業の皆様に感謝の意を表すと共に、本市と陸前高田市の子ども達の末永い交流を願い、子ども達の交流が始まった場所である名古屋城に記念銘板を設置。

<招待実績> 平成23年度 4校 280名 / 平成24年度 3校 140名

<寄附金> 687件 32,176,920円

記念銘板除幕式
(平成25年8月3日実施)



名古屋市教育委員会・陸前高田市教育委員会が「絆協定」を締結

子どもたちの交流を末永く、より一層深めていくために、両市教育委員会は、平成24年5月2日に「絆協定」を締結しました。この協定に基づき、両市の中学生が互いに訪問しあう双方向の交流が行われています。

《名古屋市の中生が陸前高田市を訪問》

- 平成24年度(試行) 市立10中学校 20名
- 平成25～令和4年度 全市立中学校 367名(延べ人数)



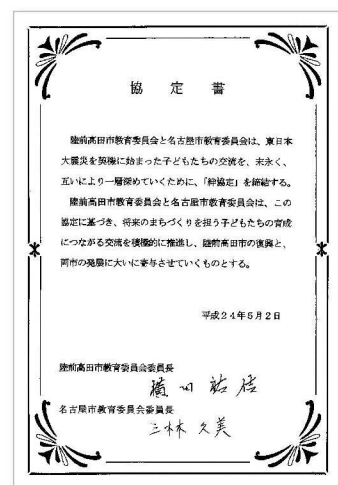
中学生同士の交流



産業体験



震災学習



絆協定書

《陸前高田市の中生が名古屋市を訪問》

- 平成25～令和4年度 全市立中学校 160名(延べ人数)



中学生同士の交流



職場体験(名古屋市立大学病院)



市長・正副議長表敬訪問



名古屋市民生による名古屋城案内

《絆交流募金》

今後も両市の交流を続け、互いの絆を強めていくため、絆交流募金活動を行っています。市民・団体の皆様からいただいた寄附金は、交流活動の充実のため活用しています。

- 寄附金 11,465,898円(令和5年1月31日現在)



5: 友好都市の協定

陸前高田市と国内初となる友好都市の協定を締結



被災した陸前高田市の
高田松原の松で作った協定書

陸前高田市への行政機能の”丸ごと支援”
をきっかけに広がった両市の交流が末永く
続けられるよう、平成26年10月28日、友好
都市の協定を締結しました。

陸前高田市と文化や観光、産業など様々な
分野で末永く交流を続けていきます。



友好都市の協定締結式

6: 陸前高田市との交流

●市民交流団の派遣



防災交流でのワークショップ



文化交流でのミーティング

●「奇跡の一本松」後継樹の植樹



植樹記念式典

●市民美術展等での相互展示



名古屋市民収優秀作品の展示(陸前高田市民芸術祭)

●イベントでの芸能の相互披露



陸前高田市「赤磯太鼓-ARATA-」の演舞(名古屋まつり)

●名古屋市及び陸前高田市市民交流事業補助制度



名古屋市団体(演奏集団「まつり座」)と陸前高田市民との交流
(陸前高田市うごくセタまつり)

7: 産業交流

産業支援から産業交流へ

平成23年度に「陸前高田産業支援デスク」を設置し、陸前高田製品の販路開拓を図るなど、現地企業を支援してまいりましたが、現在は両市の事業者等による交流を推進しています。

●名古屋市や陸前高田市で開催されるイベントへの出展

名古屋まつりなど本市で開催されるイベントに出展し、陸前高田製品のPRや販路拡大に協力するとともに、陸前高田市で開催される「産業まつり」に出展しました。

名古屋市で計14回、陸前高田市で計9回実施しました。

●市民交流団の派遣（産業交流）

両市の産業の振興を目的として、令和2年度から陸前高田市へ産業分野で市民交流団を派遣しています。令和4年度は陸前高田市において名古屋ご当地グルメを味わうイベント等を開催しました。



名古屋市内のイベントへの出展の様子



名古屋ご当地グルメを味わうイベントの様子

東北の産品を購入していただくことも支援につながりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

8: 医療支援

名古屋市立大学看護学部陸前高田市枠の設置

医療機関も壊滅的な被害を受けた陸前高田市の地域医療を支援するため、名古屋市立大学看護学部で陸前高田市枠を設置（陸前高田市出身者を対象）し、看護の中核的な人材の育成を図りました。

●期間：平成25年度～平成29年度入試の5年間

●卒業生：10名（9名は岩手県内県立病院に就職、1名は岩手県庁に保健師として就職）



高台に再建された岩手県立高田病院

卒業生の声

私が名古屋市立大学を卒業し看護師になってから3年が経とうとしています。まだまだ未熟ものですが、今日まで看護師として仕事ができているのは身近な方々のサポートだけでなく、遠い名古屋の地から継続的に支えてくださっている皆様のおかげです。このような温かい支援のもとで看護師になれたことを誇りに思います。これからもより地元の陸前高田市に貢献できるような看護師になりたいです。そして少しでも多くの人々の心を支えられるよう、日々精進していきたいと思っています。

岩手県立大船渡病院勤務 松尾 風歌（平成31年3月 卒業生）



名古屋市は被災地の一日も早い復興を願いつつ、これからも支援の取組みを進めるとともに、被災地支援で得られた経験を本市の震災対策に反映し、防災力向上につなげてまいります。また、陸前高田市の「奇跡の一本松」後継樹が令和3年3月に東山動植物園に植樹されたことを記念して、本市は毎年3月23日を陸前高田市との「絆の日」と決めました。様々な取り組みを通じて両市の友好関係を広く周知し、交流を続けてまいりますので、今後とも市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



名古屋市の取り組みや、派遣職員が行っている活動については名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/> でご覧いただけます。

陸前高田市の概要

面積：231.94km²

人口：17,788名（令和5年5月現在）
24,246名（平成23年3月現在）

震災による人的被害の状況

死者数：1,606名（災害関連死を含む）

行方不明者数：202名

死者・行方不明者の合計：1,808名（総人口の7.5%）

出典：「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の被害状況（第163報）」 総務省消防庁災害対策本部 令和5年3月9日

お問合せ先

名古屋市被災地域支援本部事務局
TEL:052-972-3585 FAX:052-962-4030

（令和5年7月発行）